

<共通論題>

『ビジネスエコノミクス』から金融政策を評価する

政策研究大学院大学 西村 清彦

<主旨>

広い意味での経済学の裾野が広がり、政府や日本銀行での政策立案や政策評価、そして企業の成長戦略作成に経済学や周辺諸科学の知見を使う「エコノミスト」の活躍の場が今後も更に広がることが予想される。その中で特に金融市場は、単なる学者の学問的興味を超え、大学以外の機関や企業に所属する「ビジネスエコノミスト」の活躍が今後飛躍的に期待される分野である。欧米では「ビジネスエコノミスト」というキャリアが確立し、独自の学会をもつなどその社会的認知度は高いが、日本ではまだ発展途上である。本パネルでは、マーケットエコノミストとしてビジネスエコノミストの最前線に立つ安達誠司氏（丸三証券）、加藤出氏（東短リサーチ）、また、学界からは元日本銀行の藤木裕氏（中央大学）を迎え、日本の金融政策・アベノミクスについて、西村清彦の進行の下、ビジネスエコノミクスの立場から政策評価の議論を行う予定である。これが日本のビジネスエコノミクス定着の一つの里程になることを願っている。

日本銀行が黒田東彦総裁のもと、2%の「物価安定目標」を達成すべく、大規模な量的・質的金融緩和に乗り出してから4年が経過する。また、日本銀行は2016年1月に「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」を導入、9月にはそれまでの政策効果に関する「総括的な検証」を行い、その内容を踏まえて、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」、いわゆるイールドカーブ・コントロールという新しい枠組みを導入した。

本パネルでは、こうした黒田東彦総裁のもとでの金融政策について、金融市場の動きを詳しく分析し情報発信している「ビジネスエコノミスト」をパネリストとして迎え、賛成・反対双方の立場からの見方を議論するとともに、先行きの展望についてもコメント頂く。また、「学者」の立場から、両者の主張の理論的な整理や評価を試みようと考えている。

やや詳しく述べると、賛成の立場からは、これまでの金融緩和政策の効果をどう評価するかについて、インフレターゲット目標達成時期が先ずれしている点も含めて報告頂く。一方、反対の立場からは、政策効果と副作用を分析・評価して頂いた上で、現行の政策について代替案はあるのか、それは目標達成の修正といったものか、より根本的代替的な政策なのかについてコメント頂く。また、理論面では中央銀行におけるビジネスエコノミストや実質為替相場との関係でマーケットはどう評価していると考えられるのか等も含めてコメント頂く予定である。